

2022 FD・SD 研修

マクロレベル FD・SD 研修実施報告書

群馬医療福祉大学 FD・SD委員会
大久保

- 〈研修実施日時〉 令和4(2022)年 9月 7日(水) 10:30~14:30
〈会場〉 群馬医療福祉大学前橋キャンパス 大講義室/1号館4IJ教室及び各会場
〈参加者〉・所属常勤教職員 158名※(全166名中)(出席率95.1%)※Zoom出席者を含む
・非常勤講師6名

(1) 概要

・研修趣旨:

本学ではクラス担任制をはじめとした、きめ細かい学生指導を実施しており、他大学と比較しても退学者数が少ないとされている。しかし、学生にとって「不本意な退学」や「関わり方次第では防げた退学」もあったのではないかと、この反省のもと、「退学者予防を含む学生指導力の向上」というテーマで研修が企画された。

退学理由には学力不振、進路変更、家庭の事情、友人トラブル、メンタル面の不調等様々であるが、学生の多様性に寄り添う関わり方の基本を、東京医科大学の辻先生にご講義を頂いた。

・講師プロフィール



辻 孝弘 先生

(略歴)

公認心理師、臨床心理士、大学カウンセラー

横浜生まれ。20代半ばに演劇活動を辞め、心理職へ転身。

立正大学文学研究科哲学専攻 修士課程修了

2003年より大学の学生相談中心に臨床を、中央学院大学、神奈川工科大学、国際基督教大学、神奈川大学、大妻女子大学等で行ってきた。学内の教職員、保護者との連携・協働による実践活動を続けている。他の領域では、学校緊急支援、犯罪被害者支援、被災者支援活動等に従事。主に来談者中心の考えによる臨床、グループ活動を続けている。2020年より、東京医科大学 学生・職員健康サポートセンターに所属。



(2) 内容

前半：講義「退学者予防を含む学生指導力の向上」

1. 学生相談について
2. コロナ禍の学生のストレス
3. 休退学の事情
4. 不適応の学生に対する視点
5. 教職員から声をかけるおせっかい
6. 学生の指導に対話を後半：グループワーク



さらに研修の中では、大学組織へのお願いと題して次のようなメッセージも伝えられた。

- 風通しの良いコミュニケーションのために、声かけあえる
- あいさつは、コミュニティの不調の一次予防
- 特にこのコロナ禍では、対面で人と会うこと自体が大きく失われ
で、当たり前の出会いを補償する場



た中

・研修受講者からは次のような感想が聞かれた。

- ◆ 教職員の学部や学年を越えた連携・協力と情報交換
- ◆ 直近であれば、退学者を出さないことではあるが、その他予備軍が多い本学の学びのモチベーション

を上げていくには、全学組織的に修正していかなければならない面があり、協議の中で確認できたことはよかったと思う。学生に関しては、仲間づくりだと思う。四年間をかけて育てる教育を構築していくことに努めたい。

- ◆ 相談に訪れた事を労う気持ちが大切。相談や面談は聞く事ではなく、聞き出す相談力が必要。忙しいさを理由にせず、たとえ5分でも真剣に相手の話を聞き、常に理解しようとする姿勢が大切。その姿勢は生徒に伝わり、信用・共感を得る。

後半：前半の講義内容を踏まえて本学の退学者についてグループワーク形式で事例検討を行う構成とした。

・研修受講者からは次のような感想が聞かれた。

- ◆ グループワークで実際の退学事例の検討が行われたことが非常に学びになりました。退学に至るまでにどのような相談があり、関係する教職員がどのような対応を行ったのか、そこにどんな思いがあったのかを知り、改めて高校への情報発信や初年度教育の重要性、そして難しさを学んだように感じます。



- ◆ 同じグループの先生方と同じベクトルで取り組めている、取り組もうとしていることが理解出来て、とても良かった。
- ◆ グループワークにおいて、学生に対する接し方についての共通認識ができて良かった。